院内急変をきたし集中治療管理を要した患者さんへ
「Rapid Response Team（RRT）導入前後の院内急変の推移、および RRT 介入と患者予後との関連」研究へのご協力のお願い

[研究の背景]

当院では、2024 年度から Rapid Response Team（RRT　院内急変予防・早期対応チーム）の活動を開始しました。RRT は、入院患者さんの状態悪化を早期に把握し、必要な対応につなげることを目的として活動しています。今回、RRT 導入前後の院内急変の状況や患者さんの転帰（その後の経過）の変化、ならびに RRT 介入と患者さんのその後の転帰を振り返り、今後の院内急変対応体制の改善に役立てるため、本研究を行います。

[研究目的]

本研究では、2023 年度から 2025 年度までの院内急変症例を後ろ向きに振り返り、RRT 導入前後におけるドクターハート（急変時の院内緊急呼び出し）発生状況、心停止の発生状況および患者さんの転帰の変化を検討します。さらに、RRT 導入後の院内急変患者さんについて、RRT 介入の有無と 24 時間死亡、48 時間死亡、30 日死亡、院内死亡などの転帰との関連を、患者さんの背景や急変時の重症度などを考慮して検討することを目的としています。

[研究の意義]

本研究により、当院における RRT 活動の意義や今後の課題を明らかにし、院内急変患者さんの早期認識・早期介入、院内急変対応体制および患者安全の向上につなげることが期待されます。また、得られた知見は、他施設における RRT 活動の構築や改善にも役立つ可能性があります。

[研究方法]

対象となる患者さんは、2023 年 4 月 1 日から 2026 年 3 月 31 日までに当院でドクターハート対応の対象となった患者さんです。また、RRT 介入と患者さんの転帰との関連を検討する解析では、2024 年 4 月 1 日から 2026 年 3 月 31 日までに院内急変後、集中治療管理を要し、研究対象基準を満たした患者さんを対象とします。診療録、RRT 記録、ドクターハート記録などに記録された情報を後ろ向きに振り返り、解析を行います。利用する情報には、年齢、性別、基礎疾患、急変した場所や時間、急変理由、心停止の有無、RRT 介入の有無、バイタルサイン、重症度を示す指標、血液検査値、治療・処置内容、集中治療室への入室状況、DNAR（心肺停止時に、心肺蘇生を行わない

こと）の有無、入院中の経過および転帰などが含まれます。なお、本研究は通常診療で得られた情報を用いるものであり、本研究のために新たな検査や治療を行うことはありません。

[倫理的配慮]

この研究計画の詳しい内容や研究結果については、ご希望があればお知らせすることが可能です。研究結果は学会や論文などで公表されることがありますが、その際に氏名、住所、生年月日、診療録番号など、患者さん個人を特定できる情報を公表することはありません。収集した情報には研究用の番号を付け、個人が特定されないよう適切に管理し、研究目的以外には使用しません。

[利益と不利益]

この研究は、過去の診療情報を用いた後ろ向き観察研究であり、患者さんに新たな検査や治療、追加の来院をお願いするものではありません。そのため、本研究に参加することによる患者さん個人への直接的な利益はありません。また、本研究による身体的な負担はありません。考えられる主な不利益は、診療情報の漏洩によるプライバシー侵害の可能性ですが、個人を特定できる情報を解析用データから除外し、研究データを適切に管理することで、その危険性をできる限り低減します。

[利益相反]

本研究に関連して、開示すべき利益相反はありません。

※本研究への参加を希望されない場合は、以下のお問い合わせ先へご連絡をお願いします。その場合、可能な範囲で患者さんの情報を研究対象から除外します。研究への参加を希望されない場合でも、診療上その他の不利益を受けることはありません。なお、すでに個人を特定できない形で解析が終了している場合や、研究結果が学会・論文等で公表された後は、個別に除外できない場合があります。

[お問い合わせ先]

国立病院機構　京都医療センター

〒612-8555　京都府京都市伏見区深草向畑町 1-1

TEL：075-641-9161（代表）

研究代表者：深川 哲嗣

担当部署：総合内科